



天気豫報
今日晴
明日は南の風晴一時曇

日露戦争の頃

音楽隊―棺前演説―戦争文學
赤井 嶽男

殊に其頃でもあり、二三中がニコニコして作らんと
十銭は子供に与つて可なり、叩いてたを覺えて居
の大金に相違無かつたが何れも、この方はブリキ組が

草市

草市はつた
風田小太郎

其うち亡父の遺徳で大越
中佐(當時大尉)の推機を受

た松浦布衣(易簀後
大尉)が南出で死して

其の葬儀が惣寺で営ま
れた時、當時早稲田の學生で

あつた同屋の昌やん(現
陸軍参謀官比佐代義士)が

空く地方の人達には初めて
である棺前の追悼演説と云

ふのをやつて全葬者を
飛ぶ上程に驚かせ且つ大

聲を上げてゐた。
そのより一段年上で表町

の子供等を中心とする組で
は皮を張つた箱々式の大

太鼓を造つて之はお祭りに
出かける様な子供供養の事

をせず、出征兵の歡送や祝
賀の提灯行列の先頭をや

つたりした。何でもその太
鼓は明笛などが不得手であ

つた爲によく本馬の忠や
ん(八木澤博士の弟、後備

三等軍醫正で名古屋に開業

三

考へられるのは、文學者は

何故日常生活にしがらみ

て来る諸障を排するに

尤も手をもつて拂ひのける

少し數へ得ると云ふので

悲しい哉、文學者も亦自

己自身の問題とならな

く、その時傳五郎に咽喉

は云はなかつたか

妖刀流轉
(186) 邑井 貞吉
因果の妖刀(一)
一人では食ひ切れない



天に口なし入を以て云々
しつと此處の事、肝を潰

熊吉は傳五郎が大和田
の熊吉に隠まつて貰つた

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

不器錠
中風の原因は血管の硬化にあり

山野邊藥局
平市五丁目 (電話六六八)

根本醫院
平市南町五二

上田醫院
平市南町

平病醫院
平市警察側元警署共済病院跡

和洋
製作販賣

片寄製作店
平市五丁目四

おでん
平市南町

文學的俗境
これこそ文學者の眞の勝

婦人科専門
平市南町五二

成田山講分社
平市南町

おでん
平市南町

